Para
Dance
Creators

活動は寄付金で
賄われています。

大前光市プロデュース

『Para Gala』

Diversity の Symbiosis
「多様性」　「共生」

「赤坂区民センター
区民ホール」

http://www.akasakaciviccenter.jp/index.html

3月13日 水 17:00～19:30

入場料　￥2,000

第1部　「Passion of Minority Gala」

第2部　「One Vision～Panel Discussion」

出演者：大前光市　かんばらけんた　西村大樹
四本聖美　DancingLuckyBoy,Soushin想真　eta　さとうあい
齊藤コン　萬木信也　丸山奈緒子　山本　藍
宮内恵理子　小谷野重子　松田美恵　他

お申込みお問い合わせ　Para Dance Creators
TEL　03-6336-5820　E-mail　pdc2020@outlook.jp

【アーティスト　紹介】

Dancing Lucky Boy, Soushin 想真（Soushin）

発達障害(自閉症)のダンサー・振付師。フリー身体表現・狐舞。感覚過敏症。元ホームレス。150億才、性別無し(社会的には男子)。地球を冒険する宇宙人。ベトナム・パレスチナなど各国のフェスティバルに出演。国内ではテレビ(日テレ24時間テレビ等)や映画にも出演。夢は、地球怪獣と仲良しになること。地球すべてを自然に還すこと。
https://soushin.themedia.jp

西村大樹（Daiki Nishimura）

自由舞踊団Wallva主宰/SOCIAL WORKEEERZ/アガイガウガ/踊るコビト/2017年～日本の軟骨無形成症患者として初めて保健体育科教員免許取得。「出来ない、やってはいけない」ではなく「向き合い方」を伝える体育、身体表現を研究中。その傍らマイノリティーのある表現者の道を開拓して行く為活動、ストリートダンスやコンテンポラリーダンスを習得、NHKバリバラ、NHK WORLD等メディア出演でマイノリティーで放つ身体表現の魅力、軟骨無形成症患者が向き合う社会問題を伝えている。

かんばらけんた（Kenta Kanbara）

「二分脊椎症」という障害を持って生まれる。システムエンジニアとして働きつつ、フリーで車椅子ダンサーとして活動。車椅子の上での逆立ちなど、上半身を最大限に生かしたダンスが特徴。大道芸や空中芸のパフォーマーとしても活動。「SLOW LABEL スロームーブメント」「O.F.F」「THE UNIVEERSE」などでも出演。パラリンピック関連イベントなどに出演しつつ、学校での講演も行っている。

さとうあい（Ai Sato）

2017年2月、slow movement「eternal symphony 2nd」（森山開次振付）への参加で、メインをつとめたことをきっかけに、ダンスをはじめる。ダンスには「言葉に成りえないもの」をかたちにする力があると感じ、身体表現の可能性を探りながら表現活動をおこなっている。
参加団体/Para Dance Creators, Slow label, Integrate dance company 響, ダンサンブル
活動ブログ/https://aisatou.hateblo.jp/

eta （Noboru Morishita）

社会適応障害のMinorityとしての人生を歩み、世の中の理不尽や不条理を覆い隠す社会にアンチテーゼを抱きつつ「民の語源」を理念に持ち、エクスプレッションを追求するアーティスト。ギタリスト、アーティスト、作曲家、モデルとして活動。

齊藤　コン（Con Saito）

ダンサー。1993年生まれ。様々なアーティストと踊り、提供された作品を踊りつつもO.F.Fというユニットでダンサーのかんばらけんたと Captain i-beeとも様々踊る。いろいろな動物や自然や人をとても尊敬し独自の個性を生かした創作活動をしている。多摩美術大学にて美術と身体論を研究する。これまでに「シンシン」「プクハン」などのソロ作を発表。Hiroaki Umeda、金井ケイスケ、木皮成などの作品に出演。ダンスユニットO.F.Fとして様々なイベントに出演。
お問い合わせ：saitohcon@gmail.com

萬木信也（Shinya Mangi）

「進行性筋ジストロフィー（ベッカー型）」で歩行困難となる。保険会社の社員として働く傍ら、IPC（国際パラリンピック）の登録強化選手として活躍。2016年にはリオ五輪でハンドオーバーとして出演。車いすダンススポーツのアスリートとして難病と闘いながらも「奇跡の人」として活躍中。得意技は「ウィリー」。

宮内恵理子（Eriko Miyauchi）

水頭症で生まれ、脳性麻痺となり右半身不随機能障害となるが、成人後パラリンピック公認種目の車いすダンススポーツ（現パラダンススポーツ）の選手として活躍。徐々に歩行も可能となりリハビリテーションとしてのダンス活動が功を奏し、表現者として独自の個性によって開花。現在乳がんを克服してダンサーとして活躍。

丸山奈穂子（Naoko Maruyama）

事故により脊髄損傷で下肢機能麻痺となる。車いすダンススポーツ（現パラダンススポーツ）の選手として活躍する傍ら、車いすダンスサークルを立ち上げて自ら普及活動にも邁進。浜松市イベントなど多数出演、全日本車いすダンススポーツの銅メダリスト。

松田美恵（Yoshie Matsuda）

仕事で運転中にトラックと大事故にて右足右手を失ないながらも九死に一生を得る。
バドミントンから転身して「車いすダンス」を頑張るチャレンジャー。
ダンサーとして昨年デビュー、動物をこよなく愛して心の限り前向きな生き方の具現者。

【アーティスト　紹介】

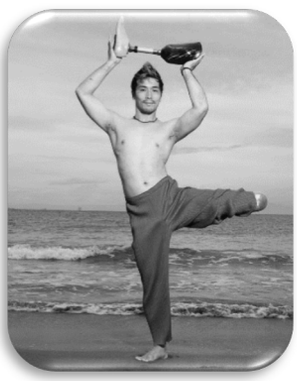
ディレクター　こやのしげこ（Shigeko Koyano）

小児麻痺にて徐々に身体機能を奪われる。
日本の車いすダンサーの草分け的存在で、2014年仁川アジアスポーツゲームズにて銅メダルなど、パラリンピアンとして活躍する「肝っ玉母ちゃん」。車いすダンススポーツ（現パラダンススポーツ）の全日本チャンピオン。NHK『EXダンス体操』出演。

エグゼキューティブ　ディレクター　四本聖美（Kiyomi Yotsumoto）

公益財団法人日本ボールルームダンス連盟を創設した礎の祖父母と両親を持ち「お母さんのお腹の中」ですでにダンス教室にて踊る類まれなダンサー。絶対音感を持つ。
競技ダンサーとして全日本グランドファイナリスト、東部日本チャンピオン、NHK趣味悠々の模範演技講師、2005年東アジアスポーツ大会銀メダリスト。現役引退後は「ジュニア育英会」など未就学児から子供たちを育て上げ、母の牽引する「車いすダンス」をサポートしつつ2017年に「ダンサー」として再びフロアーに立ち、2017年IPC世界選手権大会にて銀メダル。一念発起して個性溢れるMinorityのダンサーを発掘しサポートする活動に専念。

プロデューサー　大前光市（Koichi Omae）



24歳の時に交通事故で左脚膝下を失う。以降、義足のダンサーとして各メディアに取り上げられる。2016年リオデジャネイロの大舞台に出演、2017年平昌冬季オリンピックパラリンピック100日前イベント出演。車いすダンサーとしても活躍し、IPCワールドパラダンススポーツ世界選手権大会銀メダリストとなる等国内外の受賞歴多数。
それぞれにしか無い「個性」を魅力に変えるソロの振付や演出を行う。Para Dance Creatorsとして今後もダンサーに表現する「場」を提供。

【Para Dance Creators 昨年の活動　ギャラリー】

浜松市イベント

Be Your Self Alpha Romeoイベント

チャリティー協会

路上ライブパフォーマンス

24時間テレビ

【総合司会者　紹介】

TOMOYA
(SOCIALWORKEEERZ代表/アガイガウガ)

ストリート・コンテンポラリーダンス・MCを使いこなすマルチプレーヤー。
2011年にダンスを通じてインクルーシブ社会を実現するべくSOCIALWORKEEERZを設立。全国の福祉施設・イベント・啓発活動に出演。SWZが毎年夏主催するチョイワルナイトは昨年き9回目障害当事者600名参加。厚生労働省後援・川崎市共催・マルイグループ特別協賛など行政や企業を動かす。
2018年DAIKI・YU-Riと「アガイガウガ」を結成。別々の個性を引き出し、コンタクトに切れ目ないダンス作品を創出する。NHKひるまえほっと・NHKWORLDに出演。

【プロデューサー ごあいさつ】

本日はお忙しい中、又、平日にも関わらずPara Dance Creators主催『Para Gala』初公演に、ご臨席、そして活動にご賛同戴いて心から感謝いたします。

私は、人は皆よく見れば「Minority」であり「障がい者」だと思っています。
表現する場所に於いては、其々の「その特徴が魅力に変わる」ということ。
それは一点物の美術品みたいにキラキラと輝きを放ち、唯一無二のキャラ立ちをするんですよ。

一人一人が持っている色や形を「素敵」に「格好よく」見せて行きたい。
そんな自分の「特徴」を魅力に変えて表現する力のあるアーティストを集めたら、面白いだろうなぁ～と思い立ち、『Para Gala』を企画いたしました。
お楽しみに！！

大　前　光　市

【TODAY'S PROGRAM】

第1部　17:00 ～ 18:30

Passion of Minority Gala

eta	『薔薇と緑』	共演：四本聖美
	『Etymology of People～Road of Minority』	共演：大前光市
さとうあい	『いまが在る』	
丸山奈穂子	『舞～悠々』	
萬木信也　山本　藍	『Joy of life』	
西村大樹	『ALIVE』	
松田美恵	『Enjoy my way』	
齊藤コン	『Mutant Dynamics』	
大前光市	『双造　Souzou』	
宮内恵理子	『Blue Bird』	
Dancing Lucky Boy, Soushin 想真	『狐舞～影と光の詩』	
こやのしげこ	『粋に酔う』	
大前光市　四本聖美	『Prologue～一期一会』	
かんばらけんた	『あ る く』	

Grand Finale
— Special Thanks to Hamamatsu Pref —
https://youtu.be/Dz66kThv7M0
http://www.hcf.or.jp/hibikipj/2018/

第2部　19:00 ～ 19:30

One Vision ～ Panel Discussion

Theme（テーマ）：　共演者の魅力的なところってどんなところ？？　（出演者全員）

※公演時間、演目、出演者等都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

【アーティスト　紹介】

Dancing Lucky Boy, Soushin 想真（Soushin）

発達障害(自閉症)のダンサー・振付師。フリー身体表現・狐舞。感覚過敏症。元ホームレス。150億才、性別無し(社会的には男子)。地球を冒険する宇宙人。ベトナム・パレスチナなど各国のフェスティバルに出演。国内ではテレビ(日テレ24時間テレビ等)や映画にも出演。夢は、地球怪獣と仲良しになること。地球すべてを自然に還すこと。
https://soushin.themedia.jp

西村大樹（Daiki Nishimura）

自由舞踊団Wallva主宰/SOCIAL WORKEEERZ/アガイガウガ/踊るコビト/2017年～日本の軟骨無形成症患者として初めて保健体育科教員免許取得。「出来ない、やってはいけない」ではなく「向き合い方」を伝える体育、身体表現を研究中。その傍らマイノリティーのある表現者の道を開拓して行く為活動、ストリートダンスやコンテンポラリーダンスを習得、NHKバリバラ、NHK WORLD等メディア出演でマイノリティーで放つ身体表現の魅力、軟骨無形成症患者が向き合う社会問題を伝えている。

かんばらけんた（Kenta Kanbara）

「二分脊椎症」という障害を持って生まれる。システムエンジニアとして働きつつ、フリーで車椅子ダンサーとして活動。車椅子の上での逆立ちなど、上半身を最大限に生かしたダンスが特徴。大道芸や空中芸のパフォーマーとしても活動。「SLOW LABEL スロームーブメント」「O.F.F」「THE UNIVEERSE」などでも出演。パラリンピック関連イベントなどに出演しつつ、学校での講演も行っている。

さとうあい（Ai Sato）

2017年2月、slow movement「eternal symphony 2nd」（森山開次振付）への参加で、メインをつとめたことをきっかけに、ダンスをはじめる。ダンスには「言葉に成りえないもの」をかたちにする力があると感じ、身体表現の可能性を探りながら表現活動をおこなっている。
参加団体/Para Dance Creators, Slow label, Integrate dance company 響, ダンサンブル
活動ブログ/https://aisatou.hateblo.jp/

eta （Noboru Morishita）

社会適応障害のMinorityとしての人生を歩み、世の中の理不尽や不条理を覆い隠す社会にアンチテーゼを抱きつつ「民の語源」を理念に持ち、エクスプレッションを追求するアーティスト。ギタリスト、アーティスト、作曲家、モデルとして活動。

齊藤　コン（Mariko Saito）

ダンサー。1993年生まれ。様々なアーティストと踊り、提供された作品を踊りつつもO.F.FというユニットでダンサーのかんばらけんたとCaptain i-beeとも様々踊る。いろいろな動物や自然や人をとても尊敬し独自の個性を生かした創作活動をしている。多摩美術大学にて美術と身体論を研究する。これまでに「シンシン」「プクハン」などのソロ作を発表。Hiroaki Umeda、金井ケイスケ、木皮成などの作品に出演。ダンスユニットO.F.Fとして様々なイベントに出演。
お問い合わせ：saitohcon@gmail.com

萬木信也（Shinya Mangi）

「進行性筋ジストロフィー（ベッカー型）」で歩行困難となる。保険会社の社員として働く傍ら、IPC（国際パラリンピック）の登録強化選手として活躍。2016年にはリオ五輪でハンドオーバーとして出演。車いすダンススポーツのアスリートとして難病と闘いながらも「奇跡の人」として活躍中。得意技は「ウィリー」。

宮内恵理子（Eriko Miyauchi）

水頭症で生まれ、脳性麻痺となり右半身不随機能障害となるが、成人後パラリンピック公認種目の車いすダンススポーツ（現パラダンススポーツ）の選手として活躍。徐々に歩行も可能となりリハビリテーションとしてのダンス活動が功を奏し、表現者として独自の個性によって開花。現在乳がんを克服してダンサーとして活躍。

O.F.F　※Captain i-bee（Mitsuharu Tokita）

かんばらけんた、Captain i-bee、齊藤コンの3人のダンサーとDJ KEITAによるダンスユニット。大道芸などの様々なイベント出演、学校講演など東京を中心に活動。次回4/28野毛大道芸に出演予定。
Twitter:@0noffon0ff
Facebook: https://www.facebook.com/OFF284520575336627/
Mail:saitohcon@gmail.com

丸山奈穂子（Naoko Maruyama）

事故により脊髄損傷で下肢機能麻痺となる。車いすダンススポーツ（現パラダンススポーツ）の選手として活躍する傍ら、車いすダンスサークルを立ち上げて自ら普及活動にも邁進。浜松市イベントなど多数出演、全日本車いすダンススポーツの銅メダリスト。